

「人」と「人」が交わるフリーマガジン

KRP PRESS

2010

7

vol.114

**KRP9号館、今秋デビュー！
現場に息づく関係者の想い。**

特集

KYOTO OPEN EVENT

2010年、ソーシャルストリームで時代が変わる。

KRP

特集 ① 常に未来に挑み続ける KRPにこの秋、先進の9号館がデビューする。企画・設計・建設の各現場で三者三様の思いを聞いた。

KRP#9

今秋デビュー、温故知新の創造空間



●お問合せ 京都リサーチパーク株式会社 営業部
TEL.075-315-9333 <http://www.krp.co.jp/bldg9/>

建築した人



株式会社大林組
KRP9号館工事事務所 所長
前田 嘉寛

生まれ育ったこの街で

京都市産業技術研究所との複合棟であるKRP9号館は、地下2階地上7階、延べ床2万4千㎡。地下だけでも10,000㎡のコンクリートと3,600tの鉄骨を使う大規模な建物。それだけに躯体工事に十分な工期を確保することが当初の課題でしたが、天候にも恵まれ理想的な工期で躯体工事を終えることができました。

この9号館は複合棟のため、工事は2棟同時進行ですが、それぞれに責任者を置き、私が全体を統括しています。全部で70社ほどの協力業者が作業しており、作業員は1日に400~500人の大所帯。現場で「ヒヤリハット」があった場合は、作業を中断させ、手順と方法を見直し、納得できるまで再開しない。そして工事を進めてきたおかげで、大きな事故も無く、延べ60万時間を超え、無事故無災害を継続中です。また、職員全員がデジタルカメラを持ち、気になった事を撮影し、その対策を考えるという情報共有も徹底しています。ゼロエミッション活動[®]など工事上での環境負荷を抑える配慮も怠りません。

ひとつの建物の中で、バラエティに富んだ工法を使い分けているのも特徴です。全体は効率的に、細部は丁寧に。「洗い出し」や「研ぎ出し」など職人的仕上の繊細さも要求される、難しい建物です。職員は監督から新人まで3、40代の若く活気ある年代が中心ですが、これらの工法の体験が、彼らの良き財産になりました。

五条通に面した9号館は京都の未来に貢献する空間。皆この建物に関わったことを誇りに思い、使命感を持って仕事をしています。私自身、生まれ育った京都でこうした仕事ができるのは、とても幸せな事と思っています。

※ 廃棄物を出さない製造技術を開発する計画。ある企業・産業で排出される廃棄物を、別の企業・産業の原料として使うなどして、トータルで廃棄物をゼロにしようというもの。

設計した人



株式会社日建設計
設計部門設計室 主管
岡田 泰典

京都の知恵と気配

KRP8号館から設計を担当しています。8号館はKRP地区で初めて五条通に面するオフィスビルですが今回の9号館ではより本格的な形で通りに姿を現します。今後の地区の完成形をイメージしながら計画を進めました。

五条通に面した商空間は回廊状で、雨の日でも傘をささずに散歩できます。打ち水としての涼霧ミストや、源氏物語ゆかりの草花、町家の知恵も随所に取り入れています。

オフィス空間では「五感を刺激する創造的な空間」を目指しました。四季移ろう京都の眺望とともに、光や風も感じてもらいたい。6、7階は外廊下のオフィスとし、自然採光と換気にこだわりました。また、貸室だけでなく共用スペースも豊かにしました。

ハイ・セキュリティなオフィスでありながら、廊下に出て「昇り庭」を眺めるように立つと、向かい合った上下階の人が視界に入り、少しずつ顔見知りになっていく。そんな風に昔ながらの近所付合いを誘発する工夫は、珍しいものではないでしょうか。

京都には、学生時代から延べ20年程住んでいます。よく行くのは、大徳寺塔頭の高桐院。種々の敷石が絶妙に配置された路地のようなアプローチが好きです。角を曲がるたびにシーンと共に敷石や植栽のしつらえが変わります。天候や季節や時間によっても路地の気配が変わります。

9号館の外壁も単色で塗装していますが、リブ形状の違うパネルをランダムに組み合わせ、その影の濃淡によって色調の変化を出しました。光を受けた瓦屋根の表情をイメージしたのです。そうした京都らしい時の移ろいを、入居者様だけでなく、街行く人にも感じてもらえるとうれしいです。

企画した人



京都リサーチパーク株式会社
事業開発部
岸野 麻衣子

創造活動の拠点

入社後すぐの開発に関わり2年目。やりがいと責任を感じています。

五条通に面したKRP9号館は、商業施設を併設し、地域にも開かれた場所として注目を集める建物です。3階以上は、ベンチャーから次の段階へと成長される企業様や、京都市内外でご活躍される中堅企業様にフォーカスしたオフィスです。

9号館の企画は、KRP地区の独自性を伸長させ、更に多くの人々によって活気ある場所にしたいという発意から始まりました。

建物の開発テーマとして、「創造活動を促す環境づくり」や「地域の景観形成の促進」、「環境に配慮した仕様」などを掲げています。特に、「創造活動を促す環境づくり」はKRP地区の開発テーマの根幹。今回もこのテーマを実現するため、事業開発部として、コミュニケーションを生む空間、じっくり集中できる空間、快適な環境の創出に力を注ぎました。オフィスワーカーや経営者が、仕事に対して、また社会に対してどのような思いを持っておられるのか？どのような空間が必要とされるのか？

ゾーニングを含めた表現によって、検討を重ねてきました。また、私が初めてこの開発に加わった時期というのは、日建設計さんへ一つ一つの計画を具体的な設計に反映してもらい、インテリアや植栽を確定してゆく段階に入っていましたので、その中で多くの方から意見やアドバイスをいただきました。

最終段階に入った現在も、「創造活動を生む空間」の要素から逸れないよう、何度も基本に立ち返り、9号館を拠点に世界で活躍する人々を想いながら、考え尽くす日々を楽しんでいます。

特集②

2010年、ソーシャルストリームで時代が変わる。

「京都オープン」イベントは、株式会社イー・エージェンシーの甲斐真樹氏が草創期のことに触れる挨拶で始まった。「京都リサーチパーク（以下KRP）内で起業仲間になった近藤さん（株式会社はてな）、深田さん（株式会社ゆめみ）らと『ソーシャルストリームによる変化のなかで、京都にまた若いベンチャーが出てくるといいね』とお話したことが開催のきっかけです。そのために自分たちも何かできないか、という思いが一致して、この場をお届けすることができました。春雨が降るこの日、聴講者はソーシャルストリームの大きなうねりを体感した。いくつかのアイランドのように聴講席が設けられ「聴きながら自由に対話も楽しめるように」というスタイルで行われた。

●開催日 2010年4月22日(木) ●会場 京都リサーチパーク1号館4階サイエンスホール
●主催 株式会社イー・エージェンシー ●共催 株式会社フューチャースピリッツ/京都リサーチパーク(株)



株式会社フューチャースピリッツ 代表取締役 谷孝大氏
株式会社イー・エージェンシー 代表取締役 甲斐真樹氏

【第1部講演会】

皆スタートライン。いいタイミング。

佐々木 博氏 / 創庵 代表 <http://www.soan.jp/>

お伝えしたいことは、2つあります。まず、2010年はコンピューターが変わるということ。そして2つ目は、インターネットのあり方が大きく変わるということ。

1つ目の変化についてお話しします。私はNHK教育テレビでシニア向けのパソコン番組に12年間講師として関わってきたのですが、それは葛藤の連続でした。なぜなら、コンピューターという機械はいつまで経っても難解で初心者にとってハードルが高いのです。つまり、これだけパソコンが普及してきても、パソコンはひとつも「私たちに歩み寄ってこなかった」のです。



そして今年になって発表された「iPad」の登場で、はじめてコンピューターとそれを取り巻く環境や教育の世界が変わりはじめました。マウスもキーボードもなければ、デスクトップもマイドキュメントという概念もない。これからは技術よりも、パソコンで何をしたいか？に集中できる。むしろコンピューター教育は技術教育ではなく、表現教育であったりコミュニケーションや人間教育であるべきなんです。

これは、皆さんにとってもチャンスでもあり、

ある人にとってみれば脅威でもあります。極端に言えば、これまで学んできたことがすべて活かせるともかぎらない。一度捨てる勇気も必要になります。こうした時代の転換期にはなによりも、時代の変化を楽しんで、新しい時代を受け入れる準備と行動が重要なんです。人よりちょっと早く勉強したり、好奇心を持って夢中になって挑戦していると、パソコンやインターネットは味方になってくれます。大事なのは、そうした柔軟性や好奇心、自分で創造し考え伝える力です。

2つ目の変化については、インターネットの本質でもあると思うのですが「誰もが発信できる社会」に近づきはじめたということです。インターネットが商業利用されて15年ほどの間、ブログやmixiといったサービスの登場で身近になったものの、それなりの敷居がありました。今年のTwitterブームやUstreamといった映像で情報発信できるサービスの登場で表現や発信を気軽にできるだけでなく、お互いの情報を気軽に共有したり、伝え合ったり、気軽につながる仕組み、いわゆる「ソーシャルメディア」的な世界が加速してきた感があります。学ぶべきは「つながる」ということ。

例えばこのUstreamというサービス。50人が参加しているイベントを5,500人がパソコンの前で観ていたら、5,550人が入る大ホールで行ったものと同じ意味合いが含まれるかもしれません。では、京都の片隅の誰も知らないような小さな場所で行われている「何か」を100人の人がみていたら？そこから何が生まれるでしょうか？技術は全く必要ありません。知恵とアイデアが勝負。そのセンスを学べる書籍や教育はありません。まずは体験であり実践です。ここにいる皆さんだってすぐに始められる。いいタイミングです。皆スタートラインにいるわけですから。



佐々木 博 ささきひろし 「創庵」代表。個人が自分の知識や好奇心を活かして自立し協働出来る社会の実現のために、ソーシャルメディア教育など全国で精力的に活躍。異業種クリエイターが交流する「中目黒サロン」主宰。

S A S A K I H I R O S H I

ソーシャルストリームって？
情報が定位置にとどまるのではなく、無数のサイトをまたぐように流れる動的な状態のこと。最小単位の情報群がリアルタイムで伝達されていく仕組みと現象。

Twitter (ツイッター) って？
140文字以内で投稿(ツイート)ができている人々のコミュニケーションが楽しめるアメリカ生まれのサービス。



位置情報サービスが面白い。

近藤 淳也氏 / 株式会社はてな 代表取締役 <http://www.hatena.ne.jp/>

位置情報サービスについてお話しします。海外ではcheck inサービスと呼ばれ「gowalla」「foursquare」などがあります。日本では「位置ゲー」(位置情報登録を使ったシミュレーションゲーム)が強く、100万人を超えているのは特徴的です。

位置ゲーのユーザーが増えたのは、従来ネットをする習慣がなかった人も、最近は外出先で移動端末で見ることができると、環境が整ってきたからです。さらにTwitterなどソーシャルストリームとも連動させ、新しい体験ができるようになってきました。

ソーシャルストリームのプラットフォームは、アメリカではFacebookの普及率が圧倒的です。Twitterユーザーも増えてはいますが、ヘビーユーザーはIT関係者にとどまっている感があります。対して、Facebookは、ほぼ全員。

Twitterは、ブログ的。世の中に対して何か発言したい人のためのオープンなプラットフォームです。一方、mixi voiceのようなクローズドなプラットフォームにもやはりニーズがあると思っています。

はてなでは、そういう日常的なつぶやきに注

目していたこともあって、今年の4月12日に、モバイルの位置情報サービス「はてなココ」を立ち上げました。「おでかけしたらはてなココ」がコンセプトで、外出先でログインし「イマココ」をし、「今いる場所」を記録していくことで、思わぬ名所や、いい店を開拓できます。



この「はてなココ」でイマココするとそのままTwitterのつぶやきになります。mixiとも連動させるようにしています。最近、移動したらイマココするようになっていて、それに伴ってTwitterのフォローも自然に増加しています。

「はてなココ」でひょっとして思わぬ出会いが生まれる事もあり得ます。「見知らぬ人」から「よく見かける人だなあ」と変わるかもしれませんし、通りすがりの人や見慣れた景色が、はてなのサービスで新鮮に映れればいいです。

ある時などは、大学の出欠確認で「はてなココ」が使われました。突然、大量のイマココが流れてきて、スタッフも「何が起った?!」と驚きました。

そんな「はてなココ」を含め、今後ははてなでは3つのターゲットを考えています。

- ①先進ユーザー (はてなブックマーク、はてなダイアリー など)
- ②ジュニアユーザー (うごメモはてな など)
- ③モバイル・ライトユーザー (はてなココ、はてなハイク など)

これからも、つぶやきに注目しながら、それぞれのユーザーにふさわしいサービスを運営していきます。



近藤 淳也 こんどうじゅんや 「株式会社はてな」代表取締役。1975年生まれ。2001年京都にて創業。ブログの草分け「はてなダイアリー」、日本最大のソーシャルブックマーク「はてなブックマーク」、位置情報サービス「はてなココ」(<http://c.hatena.ne.jp/>)等を自社開発・運営。登録者数162万人。

K O N D O J Y U N Y A

若き起業家たちへ「怖れ」の正体を見極めて対処する。

Message from 近藤 淳也

「はてな」を起業した際は、親に400万円を出資してもらい「これが尽きればやめよう」と決めていました。ちょうど大学4年間の学費くらいだったので、もし失敗したとしても大学で学んだ以上のことは絶対に得られる。その自信が最初にありました。それでもやはり、起業には怖れがつきものです。僕にも怖れはありました。が、とてつもなく大きく見える怖れも分解していけば、正体が見えてきます。「失敗しそう」と感じるなら、なぜかを見極める。コストか、人的資源か、タイミングか…。原因が分かれば、対処法を考えることができます。それでもなお、最後に残った怖れは本当に漠然とした意味がないものだから、捨ててしまっている。もし「起業したいけど怖い」と踏み切れない時は、一度その怖れや不安を分解してみてください。



【第2部座談会】

Twitterを、仕事や日常でどう生かせるか。



(右奥から)
 創庵 / 代表 佐々木 博 氏
 株式会社 代表取締役 近藤 淳也 氏
 株式会社 アイネックス 川端 雅彦 氏
 株式会社 フューチャースピリッツ 代表取締役 谷孝 大 氏
 株式会社 エージェンシー 広報担当 菊石 和徳 氏
 (司会)
 株式会社 エージェンシー / グローカル事業本部 曾利 昌広 氏

曾利 Twitterをされている目的は？
川端 税理士への依頼は数居が高いと言われるので、Twitterで自分をさらけ出し「普通のおじさんだな」と知ってもらおうと。
谷孝 コミュニケーションが目的です。同じ興味を持つ人とつながることができます。
菊石 私も営業に直結というより、ECに関心を持つ方とのコミュニケーションに使っています。
曾利 Twitterで仕事を獲得できるでしょうか？
谷孝 「できる」とは思いますが、現状ではBtoBで活用しています。普段会えない人に会っているような印象を持ってもらえたり、自分の考えを知ってもらえたり。
菊石 アカウントを複数作り、入り口やチャンネルを増やせば可能性も広がりそうです。
近藤 私はユーザーに向けてかきこまって書くブログよりも、Twitterが気軽に書きやすいです。受け止める側にも、より身近に感じてもらえるようです。
曾利 Twitterで何か失敗談はありますか？
川端 指が滑ることは…あるかな？
佐々木 個々にいろんな失敗はあるでしょうが、それも許されるツールとして、身の丈の言葉でつぶやけばいいと思います。私は「自分を公私に分ける必要はないんだ」と気づき、楽になりました。指が滑ることも含めて、体験してみるタイミングでは。
谷孝 そうですね。今年になってからのTwitter登録者が、全ユーザーの4割を占める現状ですから。そのうち目的を考えてつぶやく人が増えるでしょう。SNSやブログがそうだったように。
近藤 ネットサービスの提供側としては、そういう変化をどうとらえるかです。Twitterの登場でブログの用途やSNSのクローズドな役割が際立ちました。ユーザーは使い分けていくはずだから、それに応じて新しいサービスを提供していきたいです。
曾利 なるほど。変化を捉えて活用していきます。本日はどうもありがとうございました。



モバイルのユーザー課金型に注目。

深田 浩嗣氏 / 株式会社ゆめみ 代表取締役 <http://www.yumemi.co.jp/>

ゆめみの仕事は、BtoBの業務が多く、得意分野はモバイル。マクドナルドのクーポンをはじめ、いろんな仕組みを手がけています。

2010年は面白いタイミングだと思います。というのも、ここ10年間モバイルとネットは平行線でした。同じIT業界の中でも、モバイルはモバイル業界、ネットはネット業界と分けられていて、交わることが少なかった。しかし、その垣根が急速に低くなっています。共同イベントや交流が行われ、二者の領域が近づいてきています。そんな状況で、ソーシャルストリームをどう生かせるのか、モバイルの側でも大きなテーマとして捉えています。

そもそも何のためにソーシャルストリームがあるのか。原点は「あふれる情報の中から自分にとって価値のある情報を、素早く手に入れたい」という欲求でしょう。これをITでどう解決できるか。情報の流れを見ていきます。

「人」がいて「場所」があり「情報源」がある。
【情報源→情報収集→情報加工→情報掲載→情報受信→媒体】という流れです。

まず「Google的な技術のアプローチ」が行



われます。技術による解決は進みましたが、ただし、閉じた空間にまではアプローチできていません。

この対局にあるのがソーシャルによる「草の根的な人的アプローチ」です。収集・加工・掲載までは全て人の手で、届ける場所だけテクノロジーが代わる。このひとつがTwitterであり、オープンなソーシャルのプラットフォームです。

ゆるいつながりが基本で、情報がどんどん勝手に入ってきます。現在のトレンドは「オープンソーシャル」ですが、中でもモバイルによるユーザー課金型のビジネスモデルに注目しています。ある意味ECサイトよりも課金がスムーズ。iPhoneやスマートフォンが出てきてから世界共通で使えるサービスが作りやすくなってきているからです。

4億人ユーザーを抱えるFacebookに比べれば、GREE、モバゲーなどの規模は大きくありません。しかし、日本の一人当たりのアフィリエイト単価はGREEが130円、モバゲーが67円と大

変優秀です。Facebookのアフィリエイト化がほとんど実現していないことを思えば、日本のマーケットは収益性が非常に高い。こういう視点で、オープンソーシャルを眺めると、ビジネスが面白くなります。

今後ゆめみは2つのチャレンジを視野に入れています。ひとつめは、位置情報を示す「ジオメディア」。次に「ソーシャルEC」。ECサイトのなかでソーシャル性を盛り込んだ、楽しいものと考えています。



深田 浩嗣 ほかこうじ 「株式会社ゆめみ」代表。京都大学大学院情報学専攻在学中の2000年1月、株式会社ゆめみ設立。技術力を駆使したモバイルEC、メール配信、大規模CRM等モバイルインターネットのシステム開発全般を手掛ける。

F U K A D A K O J I

【第3部交流会】

来場者のつぶやき

iPad、Twitter、Ustream、これからの時代に必要だと思い、社員3人で参加しました。
(プロモーションプランナー/女性)

「ソーシャル」「動画配信」に興味あり。消費者に自社製品の動きを見せたいので、webでの動画配信が最適だと思っています。
(福祉機器開発/女性)

三者三様の視点からお話が聞ける趣向が興味深かった。座談会でコメントーター同士のやりとりをもっと聴きたかったです。
(クリエイター/男性)

東京で半年前に聞かれ始めた話が、関西でいち早く。すごいことです。この場所が今後の牽引力になることを期待しています。
(ゲーム開発会社代表/男性)

iPadの出現で、作り手と使い手の棲み分けがハッキリすると予想します。一般には日本メーカーによる端末のほうが受け入れられやすいかも。
(webデザイナー/男性)

大阪から駆けつけてきました。業界で花形の方々と身近に話せる貴重な機会が得られて、うれしく思います。
(webコンサルタント/男性)

はてなの近藤さんにお会いしたくて参加しました。自分たちも次回京都でイベントを行いたい。
(エンジニアリング会社代表/男性)



弊社では今後グローバル事業本部という、京都ならではのおもてなし感を実践し世界に向けて発信する事業に力を入れていきます。今回は、京都の可能性を大いに感じることでできて大変うれしいです。
(株式会社エージェンシー グローカル事業本部 曾利 昌広 氏)



講演と座談会をtwitter,Ustreamで中継させていただきました。Ustreamでは多くの方が視聴され、様々な意見がかわされました。「京都の魅力発信」に可能性を感じると同時に、今後、色々と面白いことを企画していきたいと思っています。
([84ism] 副編集長 江口 晋太郎 氏)



会場の熱気を肌で感じる事ができ、大成功。感謝しています。「KRPという場所は面白い、京都もやるね、また行こう」とたくさんつぶやいてもらえるように、2回3回と続けたい。みんなで京都を盛り上げていきましょう。
(京都リサーチパーク(株) 営業部マネージャー 梅田 和哉)

株式会社エージェンシー
<http://www.e-agency.co.jp/>

■ Web ビジネスコンサルティング ■ 大型サイト運用 / コンテンツ制作 / サイト運用コンサルティング
 ■ SEO コンサルティング ■ システム構築・モバイルソリューション ■ ユーザー検証 / ユーザビリティコンサルティング ■ マーケティング支援プロダクト開発 / 運用 ■ Web サイト構築 / WEB プロモーション

【東京本社】 ● 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-23 西本興産錦町ビル 8 階
 ● TEL: 03-5282-3173 ● FAX: 03-5282-3178
 【京都インタラクティブデザインセンター】
 ● 〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町 90 京都リサーチパーク 8 号館 1 階
 ● TEL: 075-326-0910 ● FAX: 075-315-9260

株式会社フューチャースピリッツ
<http://www.future-s.com/>

レンタルサーバーを中心に、会員制サイト構築やEC 構築運営に関するASP/SaaSに至るまで、ビジネスを支えるサービスを幅広く提供している。

【京都本社】 ● 〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町 93 京都リサーチパーク 6 号館 3 階
 ● TEL: 075-326-3700 ● FAX: 075-326-7400
 【大阪支社】 ● 〒530-0001 大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 17 号 大阪第一生命ビルディング 12 階
 ● TEL: 06-4796-7900 ● FAX: 06-4796-8900
 【東京支社】 ● 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-9-6 NBFC 恵比寿南ビル 4F
 ● TEL: 03-5768-2400 ● FAX: 03-5768-2800

News

●新しいサービスの紹介

KRP入居企業様を対象に「束ねる」サービスを開始します！

KRP地区内には、独自性があり、創造性の高い企業・研究機関が多く入居しておられます。京都リサーチパーク(株)では、そのような組織を応援することを目的として、7月より、「束ねる」サービスを開始します。1社では難しい取り組みを、「束ねる」ことで実現可能となる数々のメニューをご提供します。その第一弾として、社員教育「KRPイノベーションクラブ」を実施します。このメニューは、「社員に体系的で、継続性のある研修を受けてもらいたい」「自社近辺で時間効率よく受講してもらいたい」等のニーズから生まれたもの。弊社とトーマツイノベーション(株)とが業務提携し、体系的な研修メニューを継続的に、KRP地区内にてご提供します。



社員教育「KRPイノベーションクラブ」

2010年7月15日(木)～

内容 若手・中堅対象「基本スキル」から管理職・経営者対象「マネジメント教育」までを講義します。1年目は、基本スキルの「考える力、聴く力、話す力、書く力、時間力」を中心に、14テーマの研修を30回開催します。

対象 KRP入居企業様

特徴 ①1社年額定額制(全社員・何回でも受講可能)
②明日から実践できるノウハウ習得を目指します
③講師はベンチャー・中堅中小企業に特化したコンサルティングと教育の専門家
④KRP地区内での受講

料金 1社 156,000円(税別)～ 企業従業員数に応じて設定

事業主体 京都リサーチパーク(株) 協力: トーマツイノベーション(株)

「ブラックBOX-S」の紹介

「機密文書廃棄BOXのレンタル」→「文書回収」→「リサイクル処理」する環境に優しいサービスです。紙を溶解することで、シュレッダー処理と比べて高い再生率を可能にします。

人材紹介業者への取り次ぎ

求人ニーズのある企業様に、大手人材紹介事業者をまとめてご紹介いたします。

京都リサーチパーク株式会社 事業開発部【担当:中村】 ●TEL/(075)315-8342 ●MAIL/tabaneru@krp.co.jp

Topics

●新しいWebサイトのお知らせ

京都から"コンピューティング"を発信。『バーチャルラボ』開設！

京都リサーチパーク株式会社(KRP)が京都大学大学院情報学研究所および財団法人京都高度技術研究所との連携によって開設した「バーチャルラボ」は、大学や研究機関および企業の研究を公開するサイトです。大学の多い京都では、産学連携が日々盛んに行われています。しかし、企業の側にしてみれば、自社のビジネスと親和性の高い研究がどこでどう行われているのか、まだまだ見えにくいのが現状です。KRPはそれらの研究をネット上で可視化することにより、産学連携に役立ててほしいと考えています。すでに「エコロジーとコンピューティング」「文化とコンピューティング」、2つのテーマがスタートしています。前者では、次世代情報通信技術を用いた省電力・エネルギーマネジメントに関する研究などを、後者では、機械翻訳や文化財保存におけるコンピューティング技術の活用研究などを取り上げています。「バーチャルラボ」のタイムリーな情報が、産学連携のさらなる促進に役立つことを願っています。



エコロジーとコンピューティング京都研究所

<http://www.astem.or.jp/virtual-lab/ecology/>



オーガナイザー
松山 隆司 教授
京都大学大学院 情報学研究所
岡部 寿男 教授
京都大学 学術情報メディアセンター
引原 隆士 教授
京都大学大学院 工学研究科
塚本 昌彦 教授
神戸大学大学院 工学研究科
江崎 浩 教授
東京大学大学院 情報処理工学系研究科
野村 淳二 代表取締役専務
パナソニック株式会社

文化とコンピューティング京都研究所

<http://www.astem.or.jp/virtual-lab/culture/>



オーガナイザー
石田 亨 教授
京都大学大学院 情報学研究所
松山 隆司 教授
京都大学大学院 情報学研究所
黒橋 禎夫 教授
京都大学大学院 情報学研究所
林 晋 教授
京都大学大学院 文学研究科
壇辻 正剛 教授
京都大学 学術情報メディアセンター
土佐 尚子 教授
京都大学 学術情報メディアセンター
岡田 至弘 教授
龍谷大学 理工学部 情報メディア学科

このサイトは京都大学大学院 情報学研究所、財団法人京都高度技術研究所、京都リサーチパーク株式会社の緩やかな連携によって企画・運営されています。

(代表問合せ先)財団法人京都高度技術研究所 ●TEL/(075)315-3625 ●FAX/(075)315-3614 ●MAIL/info@astem.or.jp

Newcomer

●新しい入居企業の紹介



社団法人 中小企業診断協会 京都支部 KRPスタジオ棟 D206号室

明日を担う中小企業をあらゆる角度から応援します。

中小企業のビジネス・ドクターとして、経済産業大臣が認定した唯一の国家資格である中小企業診断士による経営指導の専門家集団です。中小企業の依頼に応じて、民間企業へのコンサルティング、中小企業諸団体・組合等への運営支援、行政機関へのサービスの提供を行っています。



山崎 忠夫 京都支部長

事業内容 経営支援協力事業、調査、研究事業、ビジネスクリニック事業、能力開発事業、出版・情報事業

社団法人 中小企業診断協会 京都支部 ●TEL/(075)325-5731 ●FAX/(075)325-5675 ●MAIL/info@shindan-kyoto.com ●http://www.shindan-kyoto.com

Message

●KRP PRESSリニューアルによせて

いつもKRP PRESSをお読みいただきありがとうございます。このたび、これまで以上に皆様のお役に立てる情報誌とするために6年ぶりに紙面を刷新致しました。KRP地区の魅力の源泉である、域内で活躍されている入居企業様や開催イベントなどの情報を、より多くの皆様に知っていただくために、ページを増やすだけでなくレイアウトにもこだわって、読みやすい紙面づくりを心がけました。KRP(株)の社是である「集・交・創」は常にKRP地区に息づいています。これからも多くの皆様にKRP PRESSを通してその活動を知っていただき、なお一層KRP地区に親しみをもっていただければ幸いです。引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

京都リサーチパーク株式会社
代表取締役 左納 徹郎





EVENT REPORT

Google Dev Fest 2010

日本初の開催！ サテライト会場がKRPに。

- 開催日 2010年3月11日(木)
- メイン会場(東京)・・・ベルサール汐留
- サテライト会場(京都)・・・京都リサーチパーク(4号館1階バスホール)
- 主催 Google
- 協力 京都GTUG(京都Google Technology User Group)
- 京都リサーチパーク株



京都GTUGでは不定期に勉強会やHackathonを開催しています。Googleのテクノロジーに興味がある方はぜひイベントに参加して下さい。また、9月28日にはKRPにてGoogle Developer Dayのサテライトを行うことを予定しています。詳しくは、下記まで

- ホームページ <http://kyoto-gtug.org/>
- メーリングリスト <http://group.kyoto-gtug.org/>



株ルーツ
北村 研二氏

- ※1 京都GTUG...KRP地区で発足したGoogle認定の技術コミュニティ(GTUG(ジータグ))とはGoogle Technology User Groupの略。Googleのテクノロジーに興味のある有志の集まりで、Google認定の団体。発起人・マネージャーは、株SOBAプロジェクト取締役・山下大介氏。2009年9月、Google Hackathon(Googleハッカソン「Hack」と「Marathon」を合わせた造語。Googleの技術に興味を持つエンジニアが、毎回異なるテーマで集まり、アプリケーションを作るイベント)を、東京以外で初めて京都(KRP)で開催。
- ※2 ギーク・コンピューターやインターネットに深い知識と技術を持つ人のこと。
- ※3 株SOBAプロジェクト(KRP2号館内)
<http://www.soba-project.com/>
- ※4 オフィスアワー...専門家が待機し、来場者の質問を受け付けたり交流したりする時間。

“Google Dev Fest”はGoogleの技術コミュニティが行う手作り感満載の開発者向けイベントだ。世界各地で人気の高いこのイベントが、2010年3月、日本で初めて開催された。今回2,000名を超える事前登録者のうち、参加証を手にしたのは「DevQuiz」にパスした400名のみ。熱意と知識を持つエキスパートだけが確実に参加できる、この実験的なイベントが、開催をより意義深かった。もうひとつの実験は、会場そのもの。メイン会場は東京、サテライト会場は京都リサーチパーク(以下KRP)バスホール。京都GTUG^{※1}とKRPが、ライブ中継を行った。サテライト会場に京都が選ばれた理由は、学生やギーク^{※2}が多いことに加え、京都GTUGの存在が大きい。2009年、国内では東京に次いで2番目に発足し、現在約200名のメンバーを抱えるこのコミュニティは、世界で一番アクティブなグループだ。

東京会場の基調講演では、Googleシニアデベロッパー アドボケイトの石原直樹氏が登壇。一方、京都会場には北陸や中国地方からの参加者も含め、当選した80名程が参加し、KRP入居企業・株SOBAプロジェクト^{※3}による中継を通じて東京会場と一体となった。京都からは、ソフトウェアエンジニア・北村研二氏(株ルーツ所属、京都GTUGメンバー)のセッション「Google Wave APIによる Google Waveの拡張」を東京会場に向け配信。「Google Waveは、最も革新的なコミュニケーション&コラボレーションツール」と述べ、Google Waveを拡張する2つの新ツール「Waveガジェット」「Waveロボット」を紹介した。そして「特定の人物がトップダウン式にツールを発表するのではなく、アイデアひとつで誰もがツールを生み出せる」と締めくくった。氏の言葉には、自由に開発・公開できるWebの豊かさを楽しみながら、より良い未来のために協働する京都GTUGらしいスピリットが感じられた。

会場では皆セッションに集中し、要望はTwitterでツイート。運営ボランティアスタッフが、タイムラインを見ながら即時対応する流れで「気持ちよく進化した」(参加者談)。また、発起人・山下大介氏はじめ京都GTUGメンバーにより随時実施されたオフィスアワー^{※4}も、好評を得、イベント終了後、参加者対象でKRPデータセンターの見学会が行われると感嘆の声がもれた。

Android、iPhone、iPadなどデバイスが多様化するこれから、より多くの人々がWebの恩恵を受けるだろう。Google Dev Festと京都GTUGの活動意義もますます高まり、その重要度を増すに違いない。発足時から協力しているKRP営業部・寺戸マネージャーも、システムエンジニア出身。「これまで起業家や経営者のコミュニティはあっても、技術者同士のそれは無かった。Googleや「はてな」がそうであるように、技術者は世界を変えることができる。京都GTUGの応援を通じて、夢ある技術者の育成に貢献したい」と意気込みを語った。

●お問合せ/京都リサーチパーク株式会社 営業部
[担当:寺戸](075)315-9333 ●MAIL/ terado@krp.co.jp

EVENT REPORT

ヒト×モノ×コト 「町家スタジオ」 キック・オフ!

京都リサーチパーク初の サテライト開設!

- キックオフパーティ開催日 2010年4月7日(水)
- 会場 京都リサーチパーク町家スタジオ

ロゴデザイナー、高田 雄吉氏に聞く



京都は「日本の美の集約」。ロゴにそれを表現し、また自在性を持たせました。イベント毎にロゴで遊んだら面白いと思います。例えば花を咲かせたり...でも、僕にOKはもらって下さいね(笑)。

KRP町家スタジオを体験してみて、 いかがでしたか?

- 京産大×企業(今回は大日本印刷)のキャリア形成支援プログラムで活用予定。学生の活動拠点になれば、利用は彼ら次第。楽しみです。(キャリアアドバイザー/女性)
- イベントも、商品と同じ。内容とハコがひとつになって魅力を増します。この居心地良い空間は、イベントを包むよいパッケージになると思う。(テクノロジーライター/男性)
- 注目度の高いアートやアーティストを起用した展覧会を企画したい。集客が京都の発展、アーティストの知名度アップにつながるのでは。(アートコーディネイト会社代表/女性)

●〒602-8233 京都市上京区霞屋町通中立上る福大明神町128(裏表紙の地図もご覧ください)
●お問合せ/京都リサーチパーク町家スタジオ [担当:成海・木村](075)432-8063 ●<http://www.krp-machiya.co.jp>

京都西陣に新しい「遊び場」ができた。20畳の大広間と60㎡のギャラリーを備えた敷地175㎡の大型京町家、「京都リサーチパーク町家スタジオ」だ。

4月7日、花冷えの日。紅い暖簾をくぐると暮色が石畳に映り込み、これから始まるイベントへの期待を高める。

この町家は、そもそも1999年にオープンした起業支援と地域交流のための施設である。これまで新産業向け人材育成プログラムや、地元3小学校の有志で組織した「西陣こどもデジタル探検隊」プロジェクトなどの活動拠点となってきた。

そして、2010年4月京都リサーチパーク株式会社(以下KRP)が、特定非営利活動法人「京都西陣町家スタジオ」の流れを引き継ぎ、新たに開設した「膝詰め談義」創造スペースが「京都リサーチパーク町家スタジオ」である。

ヒト・モノ・コトが交差するビジネスシーズ創造スペースとして、この町家はどんな触媒となり得るのか。そのデビューである式典の第1部は、石敷のギャラリーで行われた。ここはかつての台所だったとはいえ、ギャラリースペースの土間、続く板間と合わせれば、40人がゆゆうに収まる広さだ。火袋(吹抜け)があり、井戸と並んでプロジェクトも設置できる。ここではKRP左納社長の挨拶の後、来賓のビジネスプランが続々と披露された。

続く2部では、開放的な大広間に一同が集い、乾杯。ケータリングとともに一献。土間でのBATI-HOLICの余興を挟んで、ギャラリー、大広間、和室...と上下階の部屋で、人々は思い思いに歓談した。時を忘れたように続く、柔らかな談笑。そして日本家屋の、肌身にしみる居心地の良さ。根が生えると言おうか、人との距離が近くなる「膝詰め」状態の場で、今後どんな新しいものが生まれるだろうか。すでに具体的な使用構想がいくつも飛び交っていた。

ここでの交流はさまざまな化学反応を起こすに違いない。例えば、トップ経営者のスケール感を知る人々と学生が出会えば、仕事観の醸成に役立つだろう。現代ビジネスと古典落語が出会えば、新たなコミュニケーションのヒントが得られるだろう。産学連携による授業がこの場で行われれば、巨大なベンチャーの孵化装置としての京都で欠かせない拠点として機能するだろう。「伝統産業に関わる人々 × ITの最先端をひた走る人々」。[若者や学生 × トップ経営者]。「日常 × 非日常」。予定調和にないヒト・モノ・コトが交差した数だけアイデアが無限に生まれる。それを着実なビジネスとして育てサポートするのが古都の手腕というものだ。

成海勉館長は「町家スタジオを支えていただく方々にお集まりいただき、心強く感じました」と期待を寄せた。暖簾の向こうに広がる豊かな展望。それは今後ここを訪れる一人一人に託されている。

EVENT CALENDER 2010 7-8

7 WED 21 **京都陶磁器釉薬研究会 (全4回) 第2回「釉薬としてのガラス」**
2010年7月21日(水) 15:00~16:30
於 京都府産業支援センター研修室

陶磁器釉薬関連の知識を補強し、京焼・清水焼製造等に有用な陶磁器や新規釉薬開発・改良するための理論的・実際の技術の修得を主な目的とする講座です。●主催/京都府中小企業技術センター、京都陶磁器協同組合連合会 ●お問合せ/京都府中小企業技術センター 基盤技術課 TEL (075) 315-8633
<http://www.mtc.pref.kyoto.lg.jp/rea/sem/cera10/>

EVENT CALENDER 2010 7-8

7 THU 22 **平成22年度 知財(初~中級)勉強会 (全7回) 第2回「明細書作成の重要ポイント」**
第3回「権利化への道(拒絶理由への対応)」
2010年7月22日(木)、8月26日(木)、14:00~16:45
於 京都リサーチパーク1号館4階 AV会議室

京都発明協会会員対象。特許標準テキストに基づく知的財産権制度全般の知識の習得、IPDL検索や特許出願書類の記載方法等の実務的な勉強、企業から見た知財管理のあり方等を講義。●主催 (株)発明協会京都支部 ●後援/近畿知財戦略本部 ●お問合せ (株)発明協会京都支部 TEL (075) 315-8686
<http://www4.ocn.ne.jp/~khat8686/>

EVENT CALENDER 2010 7-8

7 WED 28 **クラウド・インパクト・セミナー in 京都 2010**
~企業経営における衝撃 クラウドって何?~
2010年7月28日(水) 13:00~17:35
於 京都リサーチパーク1号館4階 サイエンスホール
定員:150名(先着順) 参加費:無料

地元中小企業様向けのクラウドコンピューティングセミナーを開催いたします。●主催/財京高度技術研究所、京都リサーチパーク(株)、全国SaaSベンダー連合会、ITコンソーシアム京都 ●お問合せ/財京高度技術研究所 情報事業部 TEL (075) 315-3626 FAX (075) 366-5240 ●メール/c-seminar@astem.or.jp
<http://www.astem.or.jp/c-seminar/>

EVENT CALENDER 2010 7-8

8 FRI 6 **KRP七夕まつり 2010**
今年は8月開催です!
2010年8月6日(金) 18:00~20:00
於 京都リサーチパーク東地区 アトリウム

KRP地区の皆様、地域の皆様楽しんでいただけるイベントです。緑日、抽選会もあります。皆様お誘いあわせのうえ、ご来場ください。お待ちしております!

- 主催/京都リサーチパーク(株)
- お問合せ/京都リサーチパーク(株) 営業部 TEL (075) 315-9333

EVENT CALENDER 2010 7-8

8 FRI 20 **平成22年度「再生医療サポートビジネス懇話会」**
~再生医療分野での、モノづくりのビジネスチャンスを探しませんか?~第3回(全6回)
2010年8月20日(金) 16:00~19:00
於 京都リサーチパーク1号館4 AV会議室

松崎典弥氏(大阪大学/大学院工学研究科/応用化学専攻/助教)講演。再生医療を目的とした材料創製には、ナノレベルでの構造・表面制御が重要。生体適合性・生体吸収性材料を用いたナノ構造制御材料の構築と再生医療目的とした応用について概説。●主催/京都リサーチパーク(株) ●お問合せ/京都リサーチパーク(株) 産学連携推進部 TEL (075) 315-8476
<http://www.krp.co.jp/saisei/support-business2010/>

EVENT CALENDER 2010 7-8

8 SAT 28 **第268回 オムロン文化フォーラム**
「若冲 あなたは何者だったのか?」
2010年8月28日(土) 14:00~15:30
於 京都リサーチパーク1号館4階 サイエンスホール

狩野博幸氏(同志社大学/大学院教授)講演。「家業に関心がなく絵を描くことに沈潜して行った」という伊藤若冲像が、劇的に変貌しつつあります。若冲の絵を楽しみながら、新しい「快男児」若冲像についてお話しします。●主催/NHK文化センター-京都支社 ●お問合せ/NHK文化センター-京都教室 TEL (075) 343-5522
<http://www.omron.co.jp/about/social/culture/forum.html>

